NEWS 宮崎東 132号
独立行政法人 国立病院機構 宮崎東病院／広報誌
2021.3

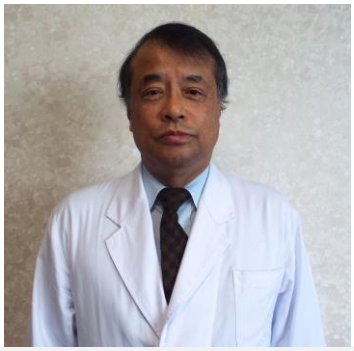
国立病院機構の理念
私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

宮崎東病院の基本理念
「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

目　次

１．巻頭言
２．令和２年度　開放型登録医療機関紹介
３．薬剤科のご紹介
４．退職・異動のご挨拶
５．編集後記

## 巻頭言　ワクチン前夜の怪文書



院長
塩屋　敬一

２０２０年１月４日に新型コロナウイルス感染症国内第１例が発生して１年２ヶ月が経過した。ようやくmRNAワクチンが実用化され、当県でも接種が始まる。約１年でのワクチン開発・製造は驚異的であるとされる。当県でもコロナ感染症第３波の規模は大きく、１日も早くワクチンによる感染防御体制強化が待たれている。

当院では３月中にはワクチンが開始されるが、その日を前に２月１９日に院長あての怪文書が市内からファックスされた。

この文書によると、ワクチンには副作用があり即時に中止すべきだという。差出人不明。同じ文書が他の先生にも届いた。馬鹿馬鹿しいと感じた半面。これは看過してはいけないと考えた。文書の根拠となった人物は会社の関係者らしくワクチン接種の動物実験を元に警告しているとの筋書きであった。しかしなぜその人物だけがデータを知っていて結論を得る事ができたのか？このような噂には切りがない。「イギリスでは既にコロナ感染症への免疫が成立しているからアウトブレイクは起きない」との流言を聞いたことがある。医師としておかしいと感じた。反論が相次いだことも記憶に残っている。

他の医師に話したところ、「もし本当なら国際的な議論が巻き起こるはず、すぐに破って捨てた方が良いのでは？」とのことだった。またある先生は、「ワクチンというような大規模な事業に当たっては、そのようなことを言う人が出るのですね。」との感想であった。今やSNSの時代である。この流布の元はSNSだそうである。気を付ける必要がある。

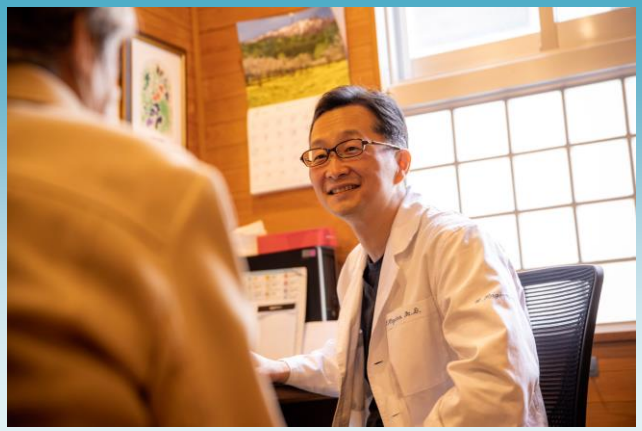
ワクチンは自由意志で受けるものである。そこで一般的な考え方を確認しておきたい。まずワクチンの副作用については様々な医学的報道があり、既に周知のことと思われる。このワクチンの副作用は報道で知る限りは少ない。また人類には他に根本的感染対策はなく、コロナ感染症をこの先何年も放置することはできない。でないと経済が破綻する。最期に、自分や家族が安全になることは間違いない。ワクチン接種に協力する意義は大きい。まずは体調を考え皆や家族の意見も聞きながら、より良い判断をしたいものだ。
私はワクチン接種を心待ちにしている。病院を代表して最初に接種を受けたいと希望している。

# 令和２年度 開放型登録医療機関紹介

## こころとからだ診療所

## 院長　萩野 寛 先生

〒880-0904
宮崎市中村東１丁目 7-1
TEL：0985-53-2235　FAX：0985-53-2237
標榜診療科：内科、放射線科、精神科



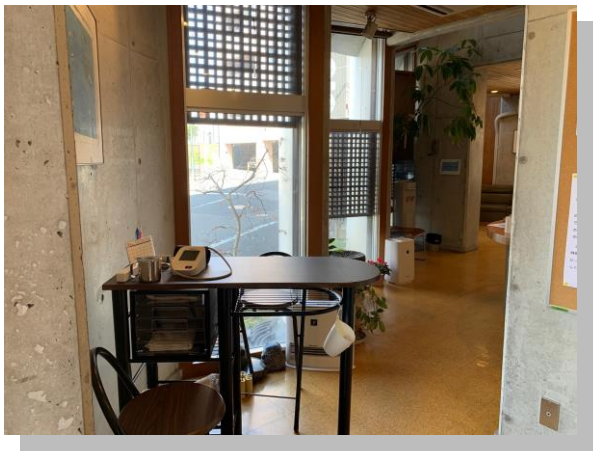
平素より、宮崎東病院の皆様には大変お世話になっております。こころより御礼申し上げます。

当院は橘橋のたもと、中村東に位置しております。この地で 34 年間、地域医療に取り組んで参りました、いちはら医院を引き継ぐ形で３月１日に開院致しました。当院は主に、一般内科・老年精神・在宅医療に力を入れております。職員は私を含めて医師２名、看護師３名、臨床心理士１名、事務２名の８名です。

私の自己紹介をさせて頂きます。私は早稲田大学を卒業後、経営コンサルティング会社に就職し、在職中に一橋大学大学院で MBA in Finance の学位を取得しました。その後、滋賀医科大学に学士編入学致しました。卒後、臨床研修は鹿児島市の総合病院で主に内科について修練し、高知市の精神病院で精神科専門医を取得後、内科療養病院に移り、主に高齢者の内科診療、認知症診療に従事しました。昨年６月に高知から妻の実家の宮崎に転居し、いちはら医院で勤務しておりました。

私の目指すところは、こころと身体を総合的に診て、患者さんやご家族の生活を包括的にサポートすることです。これが言うは易く行うは難しでして、日々頭を悩ませておりますが、関係している医療機関や介護事業者、当院の職員に支えられて、なんとか頑張っております。

外来の患者さんに異常があったときや、在宅の患者さんが急変したときなど、宮崎東病院の皆様には常日頃から助けて頂き、本当に感謝しております。今後も多々お世話になることと思いますが、何卒、よろしくお願い申し上げます。



※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成 16 年９月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。

現在、104 医療機関の先生方にご登録いただいております。

# 薬剤科のご紹介

薬剤科は現在、薬剤師６名、薬剤助手１名で構成され、調剤、薬剤管理指導（服薬指導）、医薬品情報管理、抗がん剤調製、薬務、チーム医療等様々な業務を遂行することでスタッフ全員が安全且つ有効な薬物療法に貢献すべく日々努力しています。

また、宮崎県下の保険調剤薬局（以下、院外薬局）と連携（薬薬連携）し、「院外処方箋における疑義照会簡素化プロトコール」を２年前より運用しています。これは当院で発行された院外処方箋を院外薬局で調剤する際、予め当院が作成した疑義照会不要の項目について目的や内容に同意し、合意書を取り交わすことで調剤上の形式的な変更等に伴う疑義照会を削減し、院外薬局の疑義照会に係る業務削減や処方医の負担軽減を図ることを主な目的としています。

（詳細は【当院ホームページ】→【各部門】→【薬剤科】内の「院外処方箋における疑義照会プロトコール」の運用についてをご覧ください）

https://miyazakihigashi.hosp.go.jp/section/drug.html

今年度はCOVID-19（新型コロナウイルス）の影響で病棟薬剤業務が縮小を余儀なくされるなど制約のあった一年でしたが、近い将来反転攻勢出来る日が訪れるのを待ち望みながら日々の業務に勤しんでいます。

（宮崎東病院　薬剤科長）

昭和、平成、令和と苦楽を共にした調剤台がこの度念願叶って更新されました！

# 退職・異動のご挨拶

**【退任のご挨拶】**

平成30年４月から３年間、当院に呼吸器内科医として勤めました。前回の平成22年から25年までの３年間と併せ、６年間お世話になりました。病棟は、以前の古い平屋造りから、明るい５階建てに替わり、快適な環境で働くことが出来ました。

この間、年号は平成から令和に変わり、世間はコロナ禍に見舞われました。新たな感染症の治療に携わるだけでなく、社会の在り方が感染症によって変わってしまうことを間近で感じることが出来たのは、貴重な経験でした。多くの病院スタッフの方々、紹介頂いた先生方、また担当した患者様方、お世話になりまして大変ありがとうございました。

４月から都城医療センターに異動になります。これまでに積んだ経験を生かして、更に励んでいきたいと思います。

呼吸器内科医師
白濱　知広

【定年退職のご挨拶】

このたび、本年 3 月 31 日をもって定年退職いたします。数えてみたら 2002 年 11 月より 18 年 5 ヵ月に長きに渡り皆様方には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。私事ですが、医師としてちゃんとしたお給料をいただくようになって 35 年少々です。その過半数を宮崎東病院で禄を食んでいた事になります。ところが実際には、医師免許取得からは 39 年になります。惜しい！ちょっと過半数には足りない。しかし、よく考えてみると昭和の時代が終わる頃に 2 年 2 ヵ月（最初の話では 1 年間の約束でしたが）短期間勤務していたので、合計で 20 年 7 ヶ月間となり、いろんな数字をこねくり回しても過半数は揺るぎないようです。本当に長い間お世話になりました。

小児科部長
井上　忍

【異動のご挨拶】

平成最後の年、平成 31 年 4 月 1 日からの 2 年間、大変お世話になりました。初めて宮崎に住居を構え、そして看護部長昇任でもあり、ドキドキしながら出勤したことが思い出されます。院長先生をはじめ皆様に暖かく迎えていただき本当にありがたい、良いところへ来ることができたと思いました。

1 年目の大きなイベントは、「日本医療マネジメント学会　第 18 回九州・山口連合大会」です。会長施設であり、病院幹部として学会を成功させるというミッションを受け、スタッフ皆さんの協力を得ることで、大成功に終わったと思っています。この学会で宮崎東病院の結束力を感じることができました。

2 年目の大きなことは、COVID-19 に始まり今も継続していることです。受入病棟だけでなく、他の病棟や部署の方々の協力も無ければ、成り立っていかなかったと思います。大変な思いをスタッフの皆さんにさせてしまったという思いがありますが、COVID-19 に立ち向かっていくという姿勢に私自身が力をいただきました。

これからも職員一丸となって宮崎東病院を盛りたてていけることと信じています。

本当にありがとうございました。

看護部長
中村　京子

**編集後記**

県外への往来自粛生活で、休日も買い物以外の外出は控え、テレビやインターネット、雑誌等で観光名所やグルメ情報を見たり、お取り寄せしたりするのが楽しみです。

以前のように旅行したり、飲み会に行ったり、友人と遊んだりする事が難しい世の中になっていますが、新しい生活様式を実践しながら、友人や家族に直接会って楽しい時間を過ごせるようになってほしいと切に願います。

（ 編集委員 M）